

**\* 井上四郎が持っていた「隕石片？」を収蔵**

今までアーカイブ室新聞に何度も登場した元東京天文台職員井上四郎氏（在職期間：大正9年～昭和7年）が持っていた「隕石片」がお孫さんの堤絢子氏から送られてきた。国立天文台には「隕石」の専門家はいないので、これが本当に隕石かどうかは分からないので表題には「隕石片？」と“？”をつけた。この隕石片は「宝石箱」（写真1）に入れられ、薄い桐の板（写真2）に挟まれた紙包みの中（写真3）にあった。



写真1 宝箱



写真2 桐の板



写真3 紙包み

紙包みの中の隕石片といわれるものの写真が写真4である。



写真4 入っていた隕石片

この隕石片を井上四郎氏が入手した経緯などは一切分からない。この隕石片は写真 4 で見るように崩れかかったように見え、大きさは直径 1cm 程度である。隕石片(?)の中に溶けた鉄のような丸いものが見られる。1817年(文化14年)12月29日に八王子に多数の隕石が落下したという記録がある。そのうちの1個を入手したかもしれないが勝手な推測である。また、井上四郎氏が東京天文台に勤務していた時期に日本に落ちた隕石を天文台勤務ということで入手したかとも思ったが、この時期に日本に落ちた隕石は5~6件あるが、それらは1個発見されたものでこの隕石片より大きなものである。

筆者は昭和50年(1975年)頃、堂平観測所に観測で滞在していた際、群馬県に隕石が落ちたという情報があり、堂平観測所にいた富田弘一郎、斉藤馨児氏と落下したと思われる山中に分け入ったことがある。立木に隕石が傷をつけたのではないかという痕跡を見つけたが隕石らしいものは発見されなかったという思い出がある。

国立科学博物館の専門家に分析を依頼することも視野に入れて検討したいが、アーカイブ室新聞の読者の中に隕石に詳しい方がいればご意見を伺いたいと思う。

写真5は井上四郎氏である。



写真5 井上四郎